雜言解

三

け	一丁	ゆ	廿六丁
ふ	二丁	め	廿八丁
こ	四丁	み	廿九丁
え	八丁	し	卅三丁
て	九丁	ひ	卅八丁
あ	十丁	も	四十丁
さ	二十丁	せ	四十二丁
き	廿五丁	す	四十三丁

911.107
Su87/g

雅言解巻之四

東京　鈴木重嶺纂

計の部

カ

あるまあれバけするゝひをそなたびすーあれバそひのそすゝ

古

ゝぬがうゝまゝ陸しけよそ霧ゝちれバゝ至すれるゝれそゝ

伊物白

ゝハけあバゝあゝんきゝびとそゝ丞ゝぬゝびをゝ人よゝゝゝゝ

伊物

ゝゝゝみゝねゝけゝゝゝゝ

けふ

○コトニ

○カクベツニ

○ケニノケハ清ミテヨムベシ

げふ

○マコトニ

○ナルホド

○物語ブミニハゲニコトワリ、ゲニトウナヅキテナドアリ、歌ニヨメリシハ古クハ見エズ、若菜ドニ「ほふりるがゆふうちはゆひおく表ハ、ゲニいちどるき弗の古ゑ」ト云歌アレド、ケニトイミテ、コトニノ意トシテモ聞ユ、新古今ノモゲニトヨミ来リタレド、見シ夢ヲノ方ハケ―ゾトスミテモ聞ユル歌ナリ、

けぢのき

○ケギカキノケハ、文章ニケトホシケニクキ、ケダカシナド云フケニテ敏ナルベシ、

けだし

○蓋ヲ訓ム、モシト云ニ

古 わすれふんと思ふのつくあるよりはけふまでぞ経きし

知 なされハ君より けまゆれどひうこねどや人のつれふき

行 たえ 春をわすれ時ハあれども行のねぎめハ心そかあき

月 月をそあどやまれのこほとそひんげよ ひのそ出かりう

方 ゆいそやこ山をつでもそ人けぢそ春をわれふきそそ

六 ぎえのあちをそれバ春ふうまそのそぢそこちは花

方 ゆふつるふんるいちそきたけざーやあきーわがふるごと

近シ、

けつ

○ケツハ消ス、ケタヌハ消サスヘ、俗言ハサシスセ、推言バタチツテトハタラクヘ、

けづる

○カミノモニカケテ云フ時ハ、掛ケヅルヘ、

けーき

○景色ニテ、フミコトバヘ、歌ニハ好マシカラズ、故ニ古キ歌ニハ見

円 山ちいぐ―あうとも わぎもふがゆひうんふをを人とぐめやを

六 ちちもそ花やふ―ん 浦ふをそこ―はとのぐ―こ―れどあき

八 ふ―ぐ―れ あふ―ぎ―ぎ―ぎ―ぎりハふぐ―れど雲をバ雲あるそ雲る

五 やこ―ちも すくあきよりわの雲ふれ物のぐえまは月ようそれる

於 ふ―く―ぐれバつもる雲春のこぶれさものをふのはう邪

方 ふ―ぐ―れ―ぐ―ぐ―れハ―ぐ―ぐ―ぐ

エズ、井蛙抄ニモ好ミテヨムマジキヨシ見エタリ。

ふぢ衣

喪服ヲ云、又藤ノ皮ニテオリタル賤人ノ衣ヲモシカ云ヘ。此ずゐの巧ノ歌、並ニふぢ衣ちつるゝノ歌、是ナリ。

ふりそへ

振延(ヲリハ)ノ義ヘ。ワザクノ意。

ふるさけ

サケハ離ヘ。遁ニ仰キ

不の部

古 あらのゝぢちひろ〳〵ぶこひ〳〵れどこれわよりて寄ころもきん

後 篭の朱ぞ思ひそうとゆゝこのれわらくに篭の衣きて斗こば

万 すゑのあるれ浦やきぬの篭衣ゆとりのはれば袋なあぬ

拾 篭ころもちゝ〳〵神の糸よりこるえてあてゝぬるどゝめりぬき

古 そゝ船れわるあつこまやゆゆの紐ゆうちくて人のゆくらを

後 おゝ〳〵雪のありたくゝて社とりぢゝめとくるたゝまとるさゝどらちん

万 つゝきあゝふりきけ又ろ〳〵ふぢくらん時きくゝよりやふなあびき

見ルヲ云

古 てのそゝ〳〵ふりさけうれだまるれるこあるの山よりでし月こゝも

ふるすひ

○挙動ヲヨム、日本紀ニハ進止トアリ、俗ニ云フ振舞ニ同シ。

後 わのきあゝぢくぢきよひたりさがあのくまのふるまひかひて寄るしも

拾 ゆあ〳〵人いくぢくもあ〳〵ちくふいゆるふゆるまゝふさ〳〵がふぞこそ

ふたぐり

○墨ヲヨム、フサガリ〻。

万 わのゑの数をうぞへバ百まの糸くりやまふさぐるゆるあめのぢ

ふぐ〻

○ホルノ縁フニチ、ホル串ナルベシト千蔭云ヘリ。和名抄ニ、鑊ハ土具也、和名加奈布久之トアリ、土ヲホル具ナリ。

万 かゝまもよゝかゝまりちふぐ〻もよゝふくゝめちゝ

ふゝみ

○答ヲヨム、ツボミト云ニ同シ。

山 我てゝゝゝつの浦のりちゝ〻やぐくるまでふゝみてゆりまて

万 ふゝめるとりゝ〻梅ぐえくさゝあゝ〻百まあひて咲ぬゝんかな

ふゆごもり
○冬ニナレバ万物ミナ内ニコモル。草木ノ芽ヲ出サヌニモ云。

ふミーだく
○フミサクヘシタノ紐サトナル。踏ミアラスト心得テヨシ。

ふ〜づけ
○紫漬ナリ。和名抄ニ羅ヲ訓ム。紫ヲ水中ニタテ、魚ヲアツメテ捕ル仕掛ナリ。フシハ紫〜、神代記ニ紫籬ヲフシカキトヨマセタリ。

ふすぶる
○熏ヲヨム。モエズニフツ〜トイブルヲ云。

冠辭の部

ふぢ衣
マドホ
○藤ノ皮ニテオリシ衣ヘオリメ荒ク間遠ナレバ冠ヲセタリ。又ハルトカケタルハ、塩焼ラガキルフヂ衣ハ、塩ニミテ馴ル、故ナリト。

冬ごもり
春
○冬ハ万物ミナ内ニコモリテ、春氣ヲ得テ張リ出ヅ。故ニハルト云ヒカケタリ。

ころぶし
○轉ビ伏シナリ

ころもをうへに
○衣ヲカヘシテヌレバ、

古の部

吾王君の〜せバ玉もぬぐ〜ころぶをバかさるものでくさこ

いせあて魚〜きくハぬぎ玉のよるの衣をかく〜てぬる

オモフ人ヲユメニ見ルト云詠ヨトワザノアルナリ。万葉集ニハ袖カヘストモ見エタリ。其歌ニ「マヂりのふこひてすべなき白たへの袖うへきて人をまつとや」

○コレハノレヲハブキタルヘ。コヤモ同シ。

ことに

○カクベツニ

ことあるバ

○ナルコトナラ

○遠鏡ニ「ことなるバ」ト訳ニ「ずやハ」ノ歌ノ訳ニ「トテモ此ヤウニ早ウチルクラ井ナラバ一向ことなるバさらむやハ何ぬさるる我さへよもぎのもとに」

「はるるバ君をまるべく白たへの袖のうへにもやあるぬ」

「ことなるバさらつくしてん梅の花わがぞうつ人のきてもみるふ」

「シヨテカラサカヌガヨイニ、トゼサカズニハ井スヅト訳セリ、此訳ヨク叶ヘリ、

ことハ

○ナルコトナラ

ことぞともなく

○何ト云コモナク

○ナントモ云フワケモナク

ことなしふとも

○ナイト云トモ

○遠鏡ニ、ソンナコハナイトイヒワケシテモト訳ス、

ことの不の

○俗語ニ同シ、歌コトバナラネド、此歌ノツカヒザマハ宜シ、

ことく

○ベツニ

かきくらしことハふりむすぶまでぬまを石きせて夏をこそ思へ

秋のくも名のみなりけるとばかりてことぞともなくはかなきあを

夕されバ花のなびけをふくかぜとなりてこそ思ふことなりけれ

むらさめのもちふるやうなるこころかなもとをふるはるやぬ

山里ハ世のうきたるもすくわびぬこのおちる葉のはしふ

ゆくてのれかりあけるもふるびせバうれらこぐふてをまし

210484

くれなゐのあさををかくて梅の香をぞとぐふ白そぎ

ことゝ

○ギヤウサン（仰山）ナ

うのはなをいでしとぐしかを鶯の花もさきそいろをきそへて

ごと

○如ナリ、ゴトクノクヲハブキタルヽ、

たゝにはへてじもはるをのへのくちなしぞ

こゝとの下樋

○琴ノ股ノウツロ（空虚）ヲ云、

琴とればあぐるをぞつけごゝろをものしる絃よつをやこかる

こり

○懲ヲヨム、コクルヽ、後ノ歌ハ、源山ノ木ヲコロル（伐）ト云ヒカケシヽ、

ひとをぞおもひしるこゝろあるなりぬるこゝろをこりめようつはたしとら山本のうもるこりぬかゝる我せど

こりずまし

○コリズヽ、マハソヘメルコトバ、

ありずとふきもちきゝあはたちぬべし人をくかゝぬ世をすまへば

こゝろ

こゝろ

○火ニ焦ルヽ、恋コガル、又舟ノ艙ルナドニ云カケタル歌多シ、

山もとぐゝ志ぐれのおくのあさいりくもるこゝろをぞ

但方

ゐこ出てきしおきあぐこゝろをぞ

こづし

○木積ヽ、海岸ニ波ノウチヨセタル芥（アクタ）ヲ云、

秋ぐもちこのうこゝろはよりぬはいしねど

このめ

○春ハ木芽ノ張リ出スモノナレバ、木ノ芽ハ、身動ルト云ヒカケタルヽ、

ちこのめとふ乃をもあでふかきさわもを形ぞちりる

かすゝ

ちのあるを毎ゝ月のこゝろをぞとくこゝろ

このすゑ
○梢ヲヨム、末ナリ、

うら
○多キ、

こゝ
○此所ナリ

うゝのへ
○九重也、禁中ヲ云、楚辭ニ出タリ、注ニ、天子ノ九門トアリ、

いぢらしのいぢをくゝみさるをみてこゝろぢふりぬぎてこゝをる
めづらしきあるゝふちゝきんこゝらのこゝをゆびもあるかれ
こゝろぐるあのゝ羽ぐるもちゝむを結よあわきてこゝらちくらん
あのゝくようかぐらゐの男あゝばさぞとゆゝとゆゝりのを
はゝもゝだひゝうきやゝをき枯れ月やゝのくゝろあすひやゝこれ
於そゝるかひもなゝれ梅のきふりゝのくゝよ白ひゝ片りて
因いゝゝのあゝれうやゝのいゝきゝくゝりゝ乃童る那ひぬゝられ

うゝろづゝ
○心カラ
○オノガ心カラ

うゝろあて
○心デ、是トアテヲシテ、オキタルン、

うゝろくゝみ
○試又嘗ヲヨム、俗ニ云ニ同シ、

うゝろのくま
○クマハ、曲又隈ヲヨム、道ノクマ山ノクマナド云クマニ同シ、曲リタル所、又ハ蔭ノ所ヲ云ヘリ、故ニコヽロノクマハ心ノ曲心ノ蔭ヘ文字ニヨリテ意ヲクムベシ、

風ハ花のゝうゝをゝけんづゝやうゝろゝでゝこん舞
風をぶゝもゝてゝ羽のゝちゝれゝ小ん所ゝゝゝゝゝゝふゝゝき
ゝんなゝそゝよゝゝゝゝゝやゝゝんゝゝゝゝゝゝ

こごしき
。岩根カサナリテケハシキヽ

神さぶる岩根こごしき山をこそ仕へむかれもこごしきの山

こきだれ
。シキリニノ意、コキオロスヤウニト釈スベシ、又カキミダレト云意ニモ聞ユ、

たけぬるそかくるゝ山をこきだれて雨もちくるゝぬれつゝ

かりそやそもじの振れこきだれて雪きたれる秋のうれば

ひきもゆのかくるゝ山をこきだれて雨もちくるゝぬれつゝ

こぎたゝ
。澹メグルヽ、万葉ニ漕轉ノ字ヲアツ、

いづくにかあれてすゝんあれの磯こぎたゝみゆきたれてとる

こひのむ
。禱祈ヲヨム、神ニイノリネガフヲ云、ノムニ同シ、

ぬさあきてわれはこひのむなごむらびをよおゆきてなのまだきしたん

冠辞の部

ころもの
ヒタチノ國
。在満ノ説ニ、衣手ノヒダトツヾケシヽト、

衣手の絶えたる国乃つくばの山をこゆくもりて下畧

タナカミ山
。衣手ノ手ナガキト云意ニテタナカミト云ヒカケタル歟、又衣手ノ手長シト重ネイヘルナルベシ、

いそのかみふるの国のころもてのたなかみ山のもみぢ散るかも下畧

こゝゝ川
コハ
。木幡川足ハトカケシナリ、

おもゝゝ川こゝゝのせをぬぐ衣手ぬれてこゝゝの川の瀬

ことさへぐ
カラ
。カラ人ノ言ハコヽノ人ノ耳ニハワカズサヘギテノミ聞ユレバ云ヘリ、スベテ野鳥ニハ皆帰ラセテヨシ、

つぬさそふいそのうらなみこゝゝのさへぐ鶴のさわぐ下畧

こよろぎ
イソギ
。コヨロギノ磯ハ相摸國餘綾郡伊蘇郷ニアリ、後ニ大磯小磯ト云、サレバコヨロギノイソトカケタルナリ、コユルギハ誤ヽ

いそのかみこよろぎの磯のつるぎ刺すもかひあるうらなみ

このねぬる（念想）
アサ
○此寐テ起タ朝トツヾケタルヽ、

こもりくの（万）
ハツセ
○長谷ハ山フトコロ廣クカコミタル所ナレバ、籠國ト冠ラセシヽ、後世コモリ江ノ初瀬トアルハ誤リ、

江の部

えふ（は）
○縁ナリ、江ニ又枝ニカヨハシテヨメルヿ多シ、

えふ（伊物）
○言ハントシテ、得イハレヌ意ヲコメタリ、

えぞ（古）
○エゾエンソエヤハ皆ドウモト訳スベシ、知リタイト思ヘドドウモ知リ得ヌ、見ワケヌト思ヘドドウモ見分ケ得ヌナドノ意、證歌ニヨリテ考フベシ、

えさらぬ
○ドウモコラヘラレヌ（第木）
○ヨッテタマラナイ

えや
○エゾニ同シ、えぞヲ見ヨ、

えらえ
○エゾニ同シ、えぞヲ見ヨ

えて

てへ

○テフニ同シ。トイヘ(下)ヲ約メタルナリ。テヘレバハト云ヘレバナリ。てふヲ見合ハスベシ。

てへむ

○ト云ヘバナリ。上ニ委ハシ。

てをり

○ユビヲ御リテ。

てをの

○鉞。和名天乎乃。小斧ナリ。

てぐるま

○鞦。和名天久流満。

天の部

いやたちまさりてぐきくもあるとぐ人もあるとぐ人もてつきせりてく

我カ

我カ家やまりてくぐ高砂のとのくよこそる松もみすまう

伊物

多をりて多くるとも紙かぐれで十とひうてようをへるそう

昂ホ

てをりてあひくをとうぐふれそひろやハ君ぐきやし

於

高くるひぐのあくぐてをのあとそくしるあをもうふ

年

千年もさりてかしてぐる月やるるひうまきそしたる

○テグルマノ宣旨アリテ。テグルマニテ大内ニ出入スルコトヲ得ルナリ。

てふ

○トイフ(ト云)ヲ約メタ。於

古クハチフト云ヒ、古今以後轉シテチフト云ヘリ。何テフハ何トイフニ同シ。今モ田舎ニハチフノコトバ残レリ。

伊

伊勢のくるの月比をもそハ行てふひうあくき

てもすおに

○テノヒマナク

○宣長云。スマニハ數々ノ意ナランカ。

万

てもすまふくるもぐきやかくてハそれどもあぐくろくてきを

安の部

あれ

○歎息ノ詞ナリ。ヨキコトニモ、カナシキコトニモ、深ク感スレバアハレト云。上古ニハ句ノ末ニモ置ケリ。

あれくうあれいくものやどそれやほくん人のあくぐれもぬ

於

かくくもさやくき枝の月をとて行きうひーきをくくうぬ

子

かぐでかれバやくきをとそくのきれやぐきぐうくとふきのくとふ

あハ
○被者ナリ、アレハト云フ、

あだゝ
○スキマ多ク破レタル心、和名抄ニ亭ヲ阿波良也トヨメリ、

あへず
○タヘカネテ
○コラヘラレズ、

あへぞ
あへなく
あへぬ
○不為ノ意、

あと
○後ナリ、此歌ニテハ、頭ノ方ヨリモ足ノ方ヨリモノ意、

あとたうもし
○アトハカノハカハハカナシノハカニ同ク、水泡ノ如キヲ云、

あざきなく
○無味氣ナリ
○ナント云フワケモナク、意、

ありがさし
○アルヿ難キヲ云、得ル

フカタキヲ得ガタシ、ト云ニ同シ、

ありのまゝ

○アリノマヽニ
○アルトホリニ

ありうず

○定マレル數ナリトノ説ハアレド、星野千之ハ定マレル外ニ余計ニアル數ナリト云ヘリ、五葉ノ歌ハ共意ニ聞ユ、

ありへ

○在駄ヘ、アリフトモ通ヘリ、

あらら

○ヨソ見ナリ

いぐうき

○足掻ナリ、馬ハ足ニテ土ヲカキ走レバ云、

あう

○閼伽ヲヨメリ、佛ニ供スル水ヲ云、アカハ水ノ梵語ヘ、アカ井ハ仏ニ供スル水ヲクム井、アカ棚ハ仏ニ水ヲ供スル棚、

あたゝ

あたゝゝ

○俗ニアタラヲシト云、日本紀ニ惜ノ字ヲヨメリ、

あたら代

○新レキ御代ナリ

あだ

あだゝ

○士清云、イタヅラ(徒)ノ意ト、花ニモセヨ、心ニモセヨ、ハカナクウツタルヲ云、アダシ心ハ他ニウツル心ヘ、

あたる
○物ニフルヽヲ云、俗ニ同シ、

あだうち
○チヤウドリマコトニ

いたづくつくる
○イヒツクル
○チユウモン(注文)スル

いづまや
○四阿ヲヨメリ、四本柱ノカベナキ家ナリ、

あゝ
○歎息ノコトバ、アヽト云ニオナシ、

あなづち
○強ヲヨム、シヒテヘ、カクベツ、又トリワケナドノ意トモナル、

あなづは
○アヽヤカマシ

あいうひ
○アラソヒニ同シ、

あらう
○ミアラカハ御在所ヘ宮殿ヲ云ヘリ、

いらつ松原
○アラ、ハ疎々ヘ、間遠ニ松ノタテル原ヘ、アラレ松原トアルハ誤ヘ、

あふぞめ
○薄紅ニ染タルヲアラソメト云、万葉ニ桃花褐ヲアラゾメトヨメリ、アサラノ衣ハアラ〳〵シキ衣也、

あうら
○足裏ヘ、足ノ踏數ニテ吉凶ヲ占フヲ云、

あおと
○足音ナリ

あくごる
○又アコガルトモ云、アクガルハウカル(浮)ヘ、アクノ縦ウヘ、アクガレ出ハウカレ出ナリ、又先達ノ説ニ、在所離ヘトモ云ヘリ、此考モ捨ガタシ、

あやふ
○エモイハレヌ、俗ニ云不思義ニヘ、

あやな
あやあ
○ワカチナシ
○ワカラナイ
○キヌノアヤヨリ出タルコトバニテ、アヤノワカラヌト云意、

あやふく
○生憎ヲヨム、俗ニ云イヂワルクヘ、

あや笠
○笠目ナリ、アヤナシノ

アヤニ同シ

あやめ

○アヤシメ〻、人ノアヤシムヲ云

あやうし

○俗ニ同シ

あまり

○アンマリ

あまぎる

○万葉ニ天霧合（アマギラヒ）トアルニ同シ、カキクモリフサガルヽ、

あやうく人しるべきつゞきたりとあらねば

あやめ草ちゝはゝ神もあやうしとおもふ

ふるゝみのゝくぼたのゝ上はやうやもすれば人のこゝろ

老らくのゝちのあはりかゝ、ぶるまでゝびやれぬるれ

すゝきひてゝ名をかくまくさ山ふかくまきあつの白ぶ

枝のもれそれとゝんべ久方のあまぎるきりのあづまをれば

あの白ゝ日ゝ雲たちまちひゝそゝ人白ゝ山ゝゝかふ

あまづゝゝ

○雨ツヽミミノ意、雨ニヌレンコヲイトフヽ、

ゝゝをもしと人まハりひてあまづゝみとゝ雨ゝ

かづゝゝをあづゝしてまゝゝ雨ゝ神を人やなやゝん

あまふゝひ

○數度ナリ

あまをゝをゝあゝ和歌をもひゝそのまゝふあまゝゝび行ぬ

あまゝをゝゝる水ゝ雨ゝ雲ゝ代ゝハあひうゝん

あまびこ

○天上ノ人ヲ云、貫之ノ長歌ニ、山ヒコノコヲアマビコトヨメリシハ、写シ誤レルニモアラン歌ト宣長云ヘリ

はるびこのおとづれしとゝ人ゝと身をゝる世ふ

あけぐれ

○夜ノ明ントスル時ハクラクナルモノヽコレヲ昏暗ト云、アケク

あけぐれ月のあきゝ雨ゝ和ぬゝと人のゝゝ森

ゝぐれの彩雲ゝ雨ゝ雲ゝ雨ゝ雲ゝ雨ゝ雲ゝ

レト清ミテヨムハ朝暮ナリ

あけなてば
○夜ガ明レバ

あぶる
○火ニテカワカスヽ俗ニ同シ

あふご
○和名抄ニ、杓、和名阿布古、杖名也トアリテ、俗ニ云テンビン棒ヽヨヽノ歌ニテハ逢期(アフゴ)ニ通ハセテヨメリ

あえ
○アヤカルニ同

あさけ
○朝明ナリ、七清ハ朝氣ヽトイヘリ、

あさあけ
○朝明ナリ、深ミどりノ歌ハ、五位ノ朱ノ衣ノ色ニ云ヒカケシヽ

あさなげ
○朝ニケニトヽ云ニ同シ、日々ト云フナリ、

あさのげ
○朝日ニウツリテ見ユ

ル影ノ如ク、ヤセオトロフヲ云、

あさり

○スナドリ漁ヲ云、イサリモ同シ、アリ音通ナリ、無名抄ニ、朝ニ漁ルヲアサリト云ヒ、タニ漁ルヲイサリト云説アレド、ウケガタシ、

あさり

○サガシモトムルコト、新撰字鏡ニ、餬、ヲヨム、夫食ヲ求ムルノ義ト云ヘリ、漁猟スルヲアサルト云ヒ、又史書ヲ廣クヨムヲモアサルト云、皆サガシ求ムルノ意ニ出ツ、

あさい

○朝寐ナリ、

さきの柱

○濱臣云、フシタキタル雜木ヲ云フカ、越後人彩ヲフシクレダチチ材木ニナリガタキ木ヲ、アサキト云トゾ、

あき

○飽ナリ

あゆぐ

○動ク意ト関ユ、アルクト云ニ近シ、

あしづゝ

○奥儀抄ニアシノヨ男

蓮ノ中ニウマヤウノ如キ文アリ。是ノト。後撰ノ歌ハ、前漢王莽傳ニ、臣占陛下有鼓葶之故ト云ニヨレリ。
委クハ和訓栞ニ見ユ。

いしきぬ
○絶。和名阿之岐沼アラキ絹ノ。

いしで
○芦又ハ水鳥ナドヲ文字ヨミダシテ画ノヤウニカクヲ云。源氏ニアシデ歌トモ見ユ。

いひにあひて
○是ト彼トヨク相合フナリ。

あひぐ
○間ト云フコト多クハフミコトバナレド、古ク歌ニヨメルモアリ。

万 ○明日香又飛鳥トカクニテ吹ク風ヲ云。アスカハ大和ノ高市郡ニアリ。万葉ニ印香保風佐保風ナドモ見ユ。

万 ○青柳ノ糸モテ造リテ頭ニカクル鬘(カヅラ)アリ。サレバ青柳ノカヅラト云カケタルナ。

冠辞の部

あをやぎの
カツラキ山

いををふよ
ナラ

○大宮ナド建ラルヽ地ハ、イクヘモ土ヲツミテ築ナラス。其心モテ敷百ノ土ヲ堀ストト云カケシナルベシ。アヨニハ弥敷ト同語ナリ。古来緑青吉トカケル説アレド余ハ取ラズ。

あらぬさす
ヒヒルムラサキ

○アカキ氣ノサス日トツヾケタリカネノ反ケナリ。

あづさゆみ
ハルヒクオト
モトスエヨル
イ

○イヅレモ弓ノ縁ヲモテ冠ラセタリ

あらたまの
トシツキ

○璞（アラタマ）ノ碪ト云カケタリト云ヘレド、明玉（アラタマ）ノ艶シテフ意ニテ、年ニ云ヒカケシナルベシト冠辞考ニ見ユ、委クハ本書ニツキテ見ベシ、又六人部是香ノ説ハアラハ現ニテタマハ題間ノ年月ヲ經ル間ヲ云一ツノ詞ナリト、委クハ篤信玉籤ニ出タリ、

いらたへの
コロモフヂ井

○荒妙ニテ、アラキヌノ衣ト云ヒカケ、又藤井藤原ノ藤ニツヅケシハ、フヂ布ノ意ニテ、

いちじろねの
ツキ

○金ハ土ノ下ニアル物ナレバ、土ノ下ニト云マデニカヽリタル、金ハ土ニ生スルカラニ土ニ冠フセツト云ヘルハコト足ラズト冠辞考ニ云ヘリ、玉勝間ニ曰、殿舎根ニテ地ハ殿舎ノ根ナル由ト、此説ヨロシ、

あらゝ田を
カヘス

○荒田ヲ墾カヘスト云フ意ニテ、カヘスハミト云カケタリ、

いおつたふ
日ヒカサノウラ
イリヒ

○天路ヲツタヒ行クヨトツヾケタリ

いまくゆめ
ヨソニモ

○ヨソニモト云カケシハ、雲ハ遠クヨソヘ来ルヒノナレバニ、

あまをぶね
ハツセ

○舟ノ港ナドヘ着クヲハツト云ヘバ。泊瀬ニ冠ラセタリ。

あきとぶや（カリ）　カルノ道

○天ヲ飛ブ雁トツヾケタル。語ノカヨフマヽニカルニモ云ヒカク。

ほまごろも

タミノヽ島

○雨衣蓑トツヾケタル。

あまざうる（ヒナ）

○都ヨリ鄙（ヒナ）ヲノヅメバ。天トトモニ遠ザカリヲ見ユル故。天離ルト云ヒカケタリ。

あさつゆの（オキテ）

○露ノ置クヲ起クニ云ヒカケタリ。

あきのゐね（イネ）

○秋田ノ稲ニ寐（イネ）ヲカケタリ。

ほきぎりの（フキアゲ）

○秋風ノフクト云ヒカケタル。

ほきぎりの

タツ野ハル、

○キリノタツト云ヒカケ。又キリハ立テバハル、モノナレバ。霧ルニカウムラセタル。

ほうー垣の（マナナシ）

○垣ヒトヘニテ隣ヲヘダツルユヱ。間チカキ料ニ冠ラセタリ。

あーひきの（ヤマイハアラシ）

○サマ〳〵ノ説アレド。古説ハトル　足ラス。冠科考ノ一説ハ。アハ天ニテ天繁木（アシミキ）ニ説ハ。青繁木（アシミキ）三説ハ。神代記ニ。鄭遷爽智命ヲ五キダニ斬リ玉ヘバ云々。足ハ鑯山祇トナリヌトアル。鑯ハ借字ニテ繁木山ト云意ナレバ。足繁木之山ト云歌トアリ。委クハ本書ニ就テ見ベシ。

さはる
○障ルこと

さはる
○モノニ觸ルゝこと。俗ニ同シ。

さゝ
○サヤウニ
○カヤウニ

さゞうゝ
○ソレホド
○コノヤウニ

佐し部

万葉 いりのかしふることを雨るさかしらぬやあワんといまよひてものを

六 とふくもあきやどあれどくるそハやへむぐらのもとにたゞ月を

ちた うゝれうゝこの月のくゝりまくく舟の掉さはつるハかつゝちるべく

今 くふハさえ雪ゝちとてくゝひすの声よりづるとうねたるゝん

日 くふハはそたちゝゝとも俤ゝはりはるゝばはりやれゝやの事けはまれ

ね ゝちきゝてまハさゞうゝはどくきをゝあのんやあよいそくゝそ

さとた
○敷ヲヨム。スルドキナリ。

さりげなく
○サウアリゲモナク
○ソンナヤウスモナク

さぬる
○サハ発語ニ係ルナリ。

さが
○ナラヒこと。性ヲサガト云。又科ヲモサガトヨム。ヨキサガアシキサガナド云ヘリ。

さらぬくた
○クチヤカマシキ

万 ゝちくくとのさくくたくんもいとはいをくくしゝ君のやくくくとそれハ恋めなくく

新古 君の面ハやどかくくぬよゆゝ君の今ハいくくすある月をゝれ

漢古 あくくも山の山ゝ出でよかくくきてさめくくくくひの月のさやゝ所

新古 くくハくくくくき世のさがの砂ぐくくくゝ君ゝたのめ

ほ ゝくくのゝくくあよいびてゝくくあをくくのさくくぐくやれハきくくる

秋 ゝちくくくもゝはゝもんくくくくぐくくくく

さのさま
○逆ヲヨム。俗ニ同シ。

さのしら
○カシコゲニ
○リコウサウニ
○サカシラヲストハ賢ヘブルナリ

ざれごと
○ナルホドサウヨ
○ダウリ道理デ
○ソレダカラ

さぞや
○シカゾト云フニテ。如此ト云フ意ヲ。サゾトすシハカルニハアラズ。

さつを
○章男ノ義。狩スル人ヲ云。

さなづら
○ソレナリ
○ソノマヽ

さらに
○アラタメテ
○フタヽビ

さちに
○タエテ

○俗ニ更ニシラヌナドイフサマニナリ。

続古今 ほのかぬあさたちもさらぬ時なりてやさそいやハねぬるを

○前ト同シコトバヲ重ネテツヨメタルヽ。

さら〳〵に

竹のとをあしんかるゝハさらさらよそハぬぎさちたさね

○サウアラヌ別レニテ、ノガレラレヌワカレナリ。

さらぬ別れ

たゝぬれバさらぬあれのあといとゞいとゞ人をこひ君をかれ

ゆゆしさぬわれのあくもどれふ代すとちぎる人のこゝろ

○サハ発語ニテムシロベサムシロ狭筵ニテ別セバキムシロノ意ト

さむ〳〵ろ

さむ〳〵ろ衣かさねてきさらぬやゝ袖をまくらんこもの上〳〵姫

きさらぬ〳〵ちるゝやゝあるあのほもしろ衣かさきひとりかもねを

解ク歌モアルベシ

さのゝ

○ソノヤウニ

ねぎごとをさのゝ行くんやうとてハちぎりのうきまくらめ

いろふかもあれ〳〵ちぎれのろの〳〵ハ月のうるるるん

きやけ〳〵

○清クスミタル月ニモ音ニモ云ヘリ。

いづこ〳〵ぞ月ハわかゞをいとゞれぞさやとてうるんさ〳〵れの心

あるゝ思ふ月のほし〳〵ものをきてさやときかゞハ月ぞうみぐき

さやう

○ハツキリ

○アキラカ

さゝぐれ月ぬぎめて〳〵ぞる月ぬぎぞうもこびきがこれつる

あのつゝんの心みくるもあしびさやうとてきさのうるふ月

さやに

○ハツキリト

甲斐ぐぬをさやうもんぐうれちく撰ぐうるるさやの弁山

○アキラカニ

○サヤ〳〵ト風ニ鳴ルヲ云　さやぐ

○ソノ通リ　まさに

○ソレデモ　さても

つぬさそつろんは海の中異い手が神さやそ尺そびて下異

さか〳〵らよ高ハ人ぎまさの名ちうさやぐ者ぐとかがひとり歩

あもすぐ〳〵ほ〳〵しなそ海のそこ〳〵やぐなつれい者もかつれば

於ろをかうそれ〳〵思ひろん人をもおいて〳〵そ見ろ〳〵ん

於おのづ〳〵〳〵〳〵ろんあれとちふ見たまこと〳〵ふ人のとうぢちり歩

古やづ〳〵我とろちんん人なうれさてもやうきと世をころ見ん

ま〳〵でき〳〵ん〳〵ぎやたとぎれさてもれ神そやうれうるん

○オキテ　さておき

○サウシテオキ

○サデハ和名抄ニ纔ヲヨム、サスハ俗ニ云スクフ之。　さでさい

○水中ノ細石ナリ　さゝれ石

○サヽラハ小キ意、エハ美キ意、月ノ異名ヲ　きゝら之男

○サウトモ　さゝも

○ソレホドニモ

ぬ川の淵をもわちびさでふ衣をぬぬちまふいたゝ

於ぬ〳〵び〳〵ろ〳〵おもうぼけうさてあきて高さ〳〵ん〳〵ろ〳〵でゝ〳〵ら

古わづ男ハ代よハ代さゝれろのいろそ〳〵ありてきけのむさ〳〵ん

於男ぢ代をけうる〳〵ん〳〵ふのふそあ〳〵ちんそもあるぢ

山のはれさ〳〵ん天のそ〳〵ちうるひろう〳〵ん〳〵ろ

於かぐ〳〵ぶふえやハいつのきの〳〵ちそよはしれるぬるおのひ我

はれやま〳〵いでたぐふるそ〳〵きちきのろ〳〵ちふ人もあろ〳〵

さしもぐら

○サウシナガラ

さしもぐらなくて

○サレハ発語、ハヘハ延ヘ、打ハヘフリハヘナドノハヘニ同ワザクト訳シテヨシ、

さりのくぐあれ

○ソレハドウデモカマハヌ

○サウナラサウデヨイ

さすぐふ

○サウハ云フモノヽ

○サハアリナガラ

さすらふ

○流離ヲヨメリ、所ヲハナレサマヨフヽ、又左選ヲモシカ云ヘリ、

さすらへつるかな名をもやどせばはるぐさの月をそなるもゝ

冠辞ゝ部

さねうづら

後モ逢ン クル

○後モ逢ンヘカケタルハ、カヅラノ長ク延ヒ別レテハ、末マタハヒアヘルニタトヘタリ、又スベテカヅラハ手グリテ刈拂フ故、繰ルヲ来ルニカケタルヽ、

さゝ浪の

志賀辛崎比良大津宮故キ都

○近江ノ志賀ノ郡ニアル地ノ大名ナル故、其辺リノ地ニハスベテ冠ラセタリ、

さゝがにの

クモ

○笹蟹ハ蜘蛛ノ別名ナレバ、サヽガニノクモト重ネ云ヒシヽ、又続貂ノ光恭ノ巻ニ佐瑳鍼泥トカキタルハサヽノ根ノクミカラミタルヲ蜘ノ名ニ云ヒカケタルカト、或人ノ説ヲアゲタリ、

さきくさの
ミツハ
○サキクサ(福草)ハ、一ツノ莖ノ末ニ三ツノ枝アリ、故ニミツト云語ニ冠ラセタリ、姓ニ三枝アリ、サキクサト
ヨムベシ、今ハ音便ニテサイグサト云フナリ、

幾の部

きかふ
○鏡ヲヨム、キソヒアフ
ベシ、

きぬぐ
○衣々ナリ、遠鏡ニ一ツ
ニナツテ寐テ居タフ
タリノ着ルモノガ、別
々ニナツテ別レルガ悲シイト釈レタリ、是ニテヨク聞ク、

きかく
○聞クベシ、カクハクヲ延
ベタルベシ、

きたなし
○俗ニ同シ

きそふ
○競ヲヨム、キソヒアフ
ナリ、

きぞの
昨夜ヲ云、

きつ
狐ナリ

きえうへり
キエカヘリノカヘリ

ハワキカヘリシニカヘリナド云カヘリニ同シ。其コトノ甚キ意ニ云ヘリ。

ゆだね

○イミダネ齋種ナリ。イハヒゴト祝言シテ種ヲマケバ云ヘ。イムノ約ユナリ。

ゆさのたゆた

○タユタフ意ナリ。

ゆさのたゆたに

○上ニ同シ。コノ歌ニテハ大舟ノ波ニユラル、サマヲ云。ウカラ〳〵ト物ヲ思フ意。

ゆづいしむら

○神代記ニ五百箇磐村（イホツイハムラ）。祝詞ニ湯津磐村トカキ、イホ（五百）ヲツヾメ通ハシテユ（湯）ト云ヘリ。湯津桂・湯津ハ榊ナドアリテ、ユヅハ多ク繁キヲ云ナリ。六人部是香云。湯津ハ清潔ノ義ヘ。

由〻部

ゆぐねまく

ゆぐねまく〜ほのぼのきのをゆとあゆびはぬれぬ山川の瀬ゆ

まくやぶのえぐきりわろゆぐねナ紀ゆ〜〜天よこひまろる分も

わぐんゆふゆゆふまくよ紀ぬあへるあきるまうがてきをを

いでわれをへんるこぬめそたふねのゆふのゆゆふあるふころぼを

ほのぐれゆづいをむ〜〜ゆるるむをぎかくがれとどめまて

ゆくさくさ

○サハサマヘ。ユクサマクルサマ。即ユクヤウニスモクルヤウスモヘ。

白雲のまれまきりわ〜ゆきくに君〜ゆくさくさ君〜ゆくさくさ

やまづのゆづるの神をいまゆくさもくさ舟のはやけく

ゆく〜〜〜

○物思ヒニ思ヒタユタフ意。大舟ノユクラ〳〵ト云ニ同シ。拾遺ノ歌ハ行ク〳〵ト云意ニカヽリテ聞ユ。

あぶ川のせゆわ〜〜ぎそてゆ〜〜〜ことひきやづせいでそひこ

ゆふづく

○入リ日ニツヾキテ見ユル星ヘ。長庚。和名抄布豆豆。即太白星ナリ。

ゆふづくもかるふのまぎをつるやぎそきん月ひとをと

ゆふつけ鳥

○水鶏ツケ鳥ヘタ告ゲニハアラズ。和訓栞ニ四境ノ祭ニ雞ニ木綿ヲ付テ四関ニ放ツト云トアリ。

あふ坂のゆふつけ鳥やこひきねのまくるむ

こひくてまれよこよいはなるあのゆふつけ鳥ふるびもほの芝

ゆふ波ゐ
○ユフベノ波ニキホフ千鳥ノ云

ゆふかげぐさ
○草ノ名ニアラズ、夕方ノ草ナリ。

ゆふうさまけて
○タニムカヒテ、カタマケハ方向ノ意。

ゆきりよ
○又アマモヨモ云ヘリ。雪ノ夜雨ノ夜ト云ヒテハ調ヨロシカラヌユヱ、通音ニテカク云ヘリ。モニハ意ナシト。是ハ普通ノ説ヘ清水濱臣ガ證歌ヲ數首ヒキテ云ヨハ夜ニアラズ、雨モヨハ其フルサマヲ云ヘト。此説ニ從フベシ。

あつまけ夕ぐれ
ぬれけばんも言ぬよりへあるわゆ
風よりとしまぐ時をとこぎゆけバ夕ぐれ
ぬるとこぎ

わぐやとの夕かげぐさのたちぬぐふ
れおるわゆるかを
夜ふるあるゆうぐさのたちぬやくれをまつまの
波あるらん

いつとはぬとたちぬ
ねどもゆうとまけてこひすぐ
おし

ぬるもあるもかりまくるそ
ふさもまつ梅のもれ
ぐさ

ゆぎ
○弓筈ヘ。今云ウツボ。

ゆし
○忌ヲヨム。イマハシヘ。

ゆゑ
○ユメハイノ齋ニテ、モノヲツヽシメトノコヘ、万葉ニ勤努謹等ヲヨメリ。

ゆふづくよ
オボツカナキ

ゆふ
ぬ
ぬ
ぬ

ヲグラ
○夕月夜ハサヤカナラデヲグラク、オボツカナキ故冠ラセタリ

ゆふづゝの
カユキカクユキ
○カユキカクユキハ彼方ニ行キ此方ニ行キ、ユフヅヽハ長東、即太白星ノ、夕西ニアラハル、ヰニ長東ト名ケ、朝東ニアラハル、ヰニ啓明ト名ク、其行道ニヨリテ、西ニ東ニ見ユルユエ云ヘ、

古 夕づくよそぐるめ山よりいでくる雁のおゝのうちやはきはくるゝ子し

万長 夕づくよかゆきこゝゆゑ大船のたゆたふこゝろ我あり上下畧

米〳〵部

めぐれぬ
○目ハナサヌヘ、目ヲハナサズ見テ井ルヲ云、

古 くゝとあくゝ夜ぐれぬものを梅のえだのうつの人ばまろろひめるん

続古 ゆきあはいつのゝまるゝ夜ぬゝ夜ぐれぬ月ぞみゝふりゆく

めぐれ
○目ハナスヘ、目ガレヲノウラヘ

拾 あゝ又さくべきあのあゝぶゝをうろふ菊よめぐれをもせゝ

めをふぶ
○目ニナラブヘ、外ニヨ

古 あゝぐゝめあゝぶ人のほきあれば忘れぬん数あゝぬ所い

ロシキノガアルヲ云、

めのうちつけ
○目ノサシサダメ

めでたき
○ケツコウノヿヂヤ

めさげ
○目上ゲヘ、

めもそるに
○目モ遠カニヘ

後 あゝぐれのまゝぐ花ゆゑ乃ゝふゝぐさゝゝゝ

みゝしろ

○御戸代トカケリ。ミトシロハ田ハ神田ノ。

（古）かけてくふ[illegible]いそげさかへてゝるゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

みたやめり

○御田屋守ナリ。御田トハ代々大神宮ニ寄附ノ物セラレシ田ヲ云。

古 ほそ川のつぼたぐむやうで花よりもあこの那

古 年のわたりやうで更衣もそ川のつぼたぐむ

みづたぐむ

○瑞齒グムト。中世三ツ輪クムト説ルハ非ス。水ハ汲ムト云カケタル歌ニテモ知ルベシ。ホ雅ニ齒ハ壽也。註ニ。齒墜更止、細者トアリ。

古 ほそ川のつぼたぐむ

古 ほそ川のつぼたぐむ

みづかげそ

○水ニ生スル草ヲ云。

古 ほそ川のかげそのあしぶのあるよりの川そのぐそのやふあびくらん

古 ほそ川のかげそのあしぶのあるよりの川

みあぐく

○首ナガラク。コトグクノ意。

古 ほそのつすとゆるよむさし はくさハこわごとあらわごとこそ

古 ほそのつすとゆるよむさし

古 みくぐれのそのわこわごもえそうまそのやぶ はくさ

古 みくぐれのそのわこわごもえ

みらく

○ラクハルヲ延タルニ。ラクノ約ルナリ。

古 こうしわよかくれぬ後のおのもそくさくふくうすむもそうれ

終葉 おくあくてもどさくぬ月いあづるてもそうしすれき山ざくかれ

みのしろ衣

○蓑ノ代ニキル衣ニ。和名抄ニ雨衣ト見エタリ。

古 はつるもそのこのしろ衣ちきうくまきそうとおどろかれぬる

古 なぬぐくるつすしばはるるもそのこのしろ衣ちもはくいど

みくさ

○ミクサハ真草ニ。クサト云ニ同シ。ミクサ・ミハ・ミスバ・ミコモノミノ如ク別ニ意ナシ。或ハ又水草(ミクサ)ノ意ニヨメルモアルニ。

古 春さわをこくそのくよあのくるくもわれいこひわ侍かも

みやびを

○万葉ニ風流士遊士ナドカケリ。俗ナラヌ人ヲ云。

古 あ手のきをそうくそびをのほそぶをそんとあづさひぞこし

ミやこの富士
○比叡山ヲモ

見ずもれ
○見ヲモ見ナイデモ、

ミけー
○御衣ヲ云

みてぐら
○幣帛ヲヨム。又サナリ。
神前ニ捧ルモノヲ云。

ミぎり
○砌ヲヨム。石ダヽミ。
然ルヲ後ガタハラト
云ホドノヲニ云ハ誤ル。

我こひのあいはまくゆるもあるべ部のつじといそれるをを

見ずもれ
見ずもれこびまれいの紅のめづらしげなくもゆるやづこひ

伊物
きれやはたのおるべーこうり見づらけーこあまつりれ

神
神まつるやどの卯のむ白くへのこそぐこうこそ乃やあれる

伊物
みてぐらはつづおいはるべあるやはとろ記めのこやるみてぐら

然ルヲ後ガタハラト
然ルヲ後ガタハラ
きのこぎりまをそて支はるの月

ミーぶ
○水澁ナリ。

伊物
しぶつま梓ーー山田ーーとくて又神ぬーーを付ーるう

冠辞ゝ部

ミづ垣の
ヒサシキ
○磯城瑞籬宮(シキミヅカキノミヤ)ハ上ツ代ノ中ニモコトニ名高ク久キ昔ノ御代ノーナレバカヽル冠ラセシナルベシ、

伊物
ミづの泡の
ウタカタ
○ウタカタハ水上ニウカブ泡ヲ云、ソコデ水ノ泡ノハウタカタトツヾケシ、

ミづ多の
アヲハカモ
○水鳥ノ鴨トイヒ、又其ノ鴨ノ青羽トカケル

ミづ
みづの泡のくさかこんよあつできこあや

杉
杉のあいーーーるのまるひの山のいろでこんれを

ルナリ。
しるーーの鴨の羽のあのあるまをてやるるんいかぎりれ

あぐきの
ヲカ
○地名ニアラズ、岡ノ枕コトバ、委シハ本居翁ノ玉勝間ニアゲツラハレタルヲ見ベシ、ミヅミヅシキ木ノ比カシト云フ意ヨカノヨハヒニ通フ、

ミやま木の
コリ
○深山木ハ伐リテ出スモノナレバ、懲リュ云ヒカケタリ、

ミすゞかる
シナノ
○真鶴ヲ刈ル野トツヾケタルナリ、ミスヾハ小竹ノ

志ろ
○代ヲシロトヨム、カハリノ

之乃部

志ほさゐ
○シホサワギノ約ノ

志ほひ志ほみち
○潮ノ干満ノ、宣長云、伊勢物語ノ歌ニハ、トニモカクニモノ意ト聞

志ゝ
○シバ〳〵〳〵、度々ノ、

しる
○クレナ井ノチシホナド云ヒテ、染色ヨリ出タルコトバノ、後世一トシホナド色ニ縁ナクテヨメレド、古クハ見エズ、

志ゝ
○シバ〳〵〳〵、度々ノ、

ユ。

ヨ。

ヨ。

ヨ

志うすず
○サスガニ同シ

志うず
○オヨバヌヽ
○シカズケリハシカザリケリヽ

志ゐゞミ
○古シブリテ訛ルヽ

志づく
○シヅクハシヅケルヲ縮メタルニテ沈ミテアルナリ

万 ものゝ人あるとまれどふる甲ハ志てすぎこれをひしるとれ
拾古 ほすぎは重りつゝ志るがよあるものびきさたい事まり
月清 ちるのをよりつゝまとおい牡志うゞ事るしゞれの多ハこねゞこも
拾補名 ひつゝやまてやあハふるる人のふハ志てゞみてゝをもれハいひられ
万 わゞの庵志づく白玉ゝ底てあハいるゝもとゝずハやまゞ
拾古 ちゝみあるよ志づく高の色さやゝふも事ゞゝかげの月ゝゆゝ

志づくもく
○静ナル心ナクヽ

志づくの田ゐ
○筑波山ノフモトニ今モ雲(シヅク)村アリ田居ハ井ナカト云ニ同

志のゞ
○タヘシノブ
○コラヘル

志のゞ
○カクレシノブ

万 久方ハ光ゝゞけきものゝ日ぶしづゞゝ玉乃ちゝゝ春
拾古 あく雪ち志ぶゝ志ゝ枝ゝよゝゞゞさるゝ春の雪ゝゝ
万長 後波岸ゝ中のゞりてゝゝれゝゞ屋ゞちる志づくの田ゐ上下畧
拾古 玉ゝ続くゝゝゝ

志のぶ
○コヒシタフ意

志ゆ
○シゲキ意

志よ
○庭ノフミ、伊勢物語ニ島好シ玉ヘ君ナドアリ、

志まき
○海上ニテ俄ニオトシ来ル風ヲ云、ハヤテ、

志げいと
○経糸、和名之介以度、キヌノクズ糸ヲ式ヘリ

志ぶく
○シブルル、高瀬舟シブクトハ舟ガ物ニサハリテ行キカヌル意、

志で
○シゲクノ意ト聞ユ、古言ニシゲクヲシゲト云、

志で
○垂(シダレ)ヲヨメリ水綿シデナドノシデ、ダレノ約ヂトナル、

志での田をさ
○ホトトギスノ異名ニ、死天(シデ)ノ山ヨリ来ルヨシ云ナラハセリ、又戦ノ田長ト云フ説モアリ、萩原元克云、シデノハシダリ穂ノ田テフ意、タヲサハ田ワザナルベシト、此説然ルベシ、

志ぎめて　ねぐらに
○暗ハアカツキニ羽タヽキヲシゲクスルヘ
ハネガキハ羽タヽキナリ

一色

○標ヲヨメリ　標ハシルシヘコヽヲトシルシキメオクノ意

志ひて
○強ヲヨム
○ムリニ
○ゼヒ

志ひーぜの社
○喪服ヲ云

志ものや
○笹ヲヨム　身ヲタヽクヨケヽコヽニハ霜ニヨセタリ

志ちり
○若木又若枝ヲ云

志ろたへの
コロモツヅ雪
○タヘハ捲ヘ布ヲ云　ソメヌ布ノ衣其外スベテ白キ物ニ冠ラセタリ

志づるすき
カズニモアラヌ
○倭文(シヅ)ト云フ布ヲオラン料ノヲダマキハカズタキユヱカズトツヾケタルヘ

志づのを多まき
イヤシ
○前一同シヅ(賤)ト語通フマヽイヤシトツヾケタルヘ

冠辞之部

ふがの
ナノ

○息長島ハ、和名抄ニ鵜鳥保トアリテ、俗ニ云カイヅブリ、シナガ島井(泰)トカルハ、雌雄相ヒキ并ルヨリ云ヘリ、

つくしの
ツクシ

○ンラヌ火ハ冠辭考ニ景行紀ヲ引テ委ク說カレタリ、遥ニ火ノ光ヲ見テサシナ来レハ、其光離ガトモセル人トモ知レズ、故ニ其國ヲ火ノ國ト云、其イハレモナ冠ラセタルナリト、

おきつ嶋の
オキテモ

○ツユノ置クニ起クヲ云ヒカケタリ、

きたへの
マクラトコ
コロモノソデ

○シキタヘハ敷栲ニテ夜ノ衣ヲ云、ヨリテハコマクラナドヘ冠ラセタルニ、

きさゝ山
ヤマト

○崇神紀ニ、都ヲ磯城ニ遷シ玉フ、瑞垣宮トマヲス、欽明紀、都ヲ倭國磯城郡磯城島ニ遷シ玉フ、仍テ磯城島金刺宮ト号ストアリテ、二代ナガラ殊ニ數年ヲハシマシテ名高ケレバ、大和国ノ名ノ如クナリニケン、後ニコト所ノ都トナリテモ、猶ヤマトト云ニ冠ラセシハ此故ナルベシ、

かつらき山
セシナリ、

○若木ノ林ヲシモト、云ヒ、又木ノホツエヲシモト、云、柴薪ナバフヂカヅラニテ結フ故、カツラギ山ヘ冠

ひと山
ヤマ

○尋ヲ訓ム、今モ一ヒロニヒロト云、周礼ノ注ニ八尺ヲ尋ト云ト見エ、

なふけふ
ニヒロ

○日ニヒロ、

ひとやり
ヤリ

○人ヤリハ人ニヤラルヽヲ云、人ヤリナラヌハ我カラスルヲ云、

ひとつ丸

○十尺ヲ一ツヱト云。伸哀紀ニ、身ノ長十尺ヲヒトツヱトヨメリ。故ニ一ツヱ足ラズヤサカ（八尺）トヨメリシ。

ひと石めぐり

○太白神ヲヒト夜メグリト云ニ、又ヒト日メグリト云。太白星ノ精ナリトゾ。世ニ此神ヲフサガリノ神ト云ヘリ。ヨリテ此神ノメグラヌ方ヘ行クヲ方違ヘト云フヨシ。

ひぢ

○泥ナリ。多ク悪路ニヨセテヨメリ。

ひとわらへ

○人ワラハセヌハセノ綱ヒヘ。

日ちげき

○葵ナリト云説アレド。

豊明ニヨメルヲ見レバ日カゲノカヅラナルベシ。和名抄ニ、蘰、和名比加介トアリ。

人だのめ

○人タノマシメヌ人ヲタノミニサスヘ。

○一向ヲヨム。イチヅ（一途）ニヘ。

ゑ多すう

○前ニ同シ

ゑ多ぶる

○浸漬等ヲヨム。水ニヒタスヘ。自ラ水ニ入ル

ゑ多す

ハヒタルシ。

むづ

○ヒツタリトヌルヽ人。

神ひだて結ひしめるのうなきをきちうのたやくらね

ひつき

○日次トカケリ。貢租ヲ云、ミツギモ同シ。

とどこをる時ちあまどれをひるあるあの夜のひのひつぎち

銅ちどれきりちの器ふうきどハ代のひつぎは千ぢあるなる

むつち

○稽和名抄ニ路賀於比、俗云比豆知自生稲也ト和名抄ニ見ユ。刈リタル稲ニ自生シタル稲ナリ。

ほんておつる山田のひつちちハ実ちるるしどかるくもれ

いねもす

○終日

ひねもすふんたどぬるをいつちしみあるしあるん

ひたどえ

○藁ヲヨム。木ノキリカ

苔山田はたどのつる根のつるもだ今ふちるべとむとだえるとり

ブヨリ出ル芽ザシヲ云ヘリ。

活次

ひつちぢ山田のひつちちとぢえてちつる田ぢどふちるふちかれ

一

ひさし

○久クシ。ダ葉ニモ見ユ。

野徒花

さちとしりのつるとすちえのちつるどひさちあるふちる式

むきまゆ

和名抄ニ獨蚕比岐万遊トアリ。ヒキタルヒトスヂノマユノ糸ヽ。

ゆき

ゆくかきちるふぞひきちゆれいくふんちちどもしちはつ

冠辞〻部

むかぐめり

ウスヒ

○曇リ日ノ影ハウスケレバ。ウスヒト云意ニイヒカケタリ。

方

ひちぐちうちすひの板を被ぐふいちぐちひくやちえぬも

むきかさの

アメ雨ソラツキ

○天ノ形ハ蓋ヒサゴノ内ノマロクムナシキ

秋風の吹ちゆくちうちうちふたるぬちもれし

内

ちち比ちちうちうちけきちちのちふちびちちちくぬのちちち年

ニ似タレバ、タトヘテ転形（ヒサカタ）ノ天ト云ナラント縣居翁考フレタリ、光ノドケヤハ空ヲ消キタルニ、

毛ゝ部

ちゝとも に

○トモビヽニ

○イッシヨニ

ろろし

○脆ヲヨム、俗ニ同シ、

もゝゝ

○尊ラヽ、かざし抄ニフツト欲シタリ、ヨクアタレリ、

わどく

○悖ヲヨム、ソムキモト

ルヽ、思フヤウニナラヌノ意、次ノモドカシヲ合セ考フベシ、

わゞか

○カクセント思テモサウハナラズ、俗ニミレツタイト云ニ似タリ、

ものふの

○オモテニアラハレズ

奥ニコモリヲル意、歌ニハ此風雅集ノ定家ノ外ニ見アタラネド、文ニハ見ユ、夕貞ノ巻ニものふうくおりき方ハおくれて、推本ニ耳なれぬけうやいらんいとの除く面白ナドアリ、

かのゆゑ

○モノデモナイノニト訳スベシ、サウハアリサウモナイモノヂヤニト云フラアトニソヘテ見レバ、ヨクワカルベ、

かのゆゑは

○二文字ソハルキハ、普

通ノ故ノ意トナル、

あのとりなづら

○モノニアリナガラ
○ニアノ約ナリ、

○俗ニ云、モシソレニテ
ハナキカナド云モシ
ナリ、

○百千鳥ニハサマザマ
ノ説アレド取ルニ足ラズ春鳴ク諸鳥ヲ云ナリ、

○鵑、一名鶯、和名毛受、
○草グキハ、顯昭ノ説ニ
クサクヾリト云ヘ

リ、古事記ニ血自手股瀝出云々朝漏云トアリ、クキハクヾリノ古言ナルヿ之ヲ以テ證スベシ、

冠辭之部

かのゝぬの
ヤソウヂ川
ウヂ川
ヤソトモノヲ

○チハヤ人ト云ニ同ク、宇治ハイヅ(稜威)ト云意ニテ、イヅトカヽリタルヘイヅトウヂト通ス、ヤソトモノヲハ諸臣ヲサシテヨメル歌多シ、故ニモノヽフヲ冠ラセシ之、

りゝぢ葉の
スギニシ

○木ノ葉ノ散リ過ルヲ、人ノ此世ヲ過キ去ルニタトヘタリ、

すホミヤ

○百ノ石城ノ大宮トカケタルヘ、大内ノヿヘ、後ニハ百シキトノミ云ヘリ、

世之部

せゞー

○狭ヲヨム、今云セマシ、

せふ

○せハ狭く、道モセニ塞モセニナド、セニハセマキホドニト云意。

せふ

○銭く、瀬ニツカネタリ。

せど

○万葉ニ、湍門迫門トカケリ。海ノセバマリタル所ヲ云。又農家ナドニテ裏口ノ方ヲセドト云ヘリ、背門ノ義ト云ヘリ。

せぎり

○瀬切ニテ、瀬ヲ横ギル波ヲ云トイヘド受ケラレズ。瀧ノセギリトモ云ヘバ、波ノ岩ナドニフレテ散リ砕クルヲ云ナラン。

せめぐ

○関ヲヨム貴咎ムルノ意。此古今ノ歌ヲ、遠鏡ニナゼ不足ニ思フタ「デアラウ」ト訳サレタリ。

せ絶て

○サシツマリテ、セマリテノ意。金葉ノセメテモヲシキハ、シヒテノ意ト聞ユカヽルヒメテノイヒブリ物語ブミニ多シ。

すがる

○其モノヲタヨリニスルヲスガルト云。枝ニスガルナドモ云ヘリ。

すごる

○後世庶ノコトヽスルハイタク誤レリ。似我蜂(ジガハチ)一名細腰

須之部

すぐる

すぐる

すぐる

蜂(ヨシホソ)ノ(コ)腰細ノスガルヲト女ナド古クヨノルヲ見テ思フヤシ。

すがなく
○無因拠ノ略語。今俗ニスゲナシト云ニ似タリ。

すぐる
○群レ集マル。

すれそち
○即ノ字ヲヨム。スグニ・ヂキニナド訳スヘシ。

すげて
○今モ緒ヲスゲル柄ヲスゲルナド云ヘリ。

すどし
○凄々。又凄絶トカク。モノスゴシト云ニ同シ。

すこし
○俗ニ同シ。

すさび
○スサブハスヽムニテ風吹スサビナド云ヘリ。手スサミ・口スサミハ手スヽミ口スヽミノ義ニシテ。ワザ〳〵セヌノ意ヽ。

すさまし
○荒涼タヨム。モノスゴ

クゾツトスルヲ云。枕草紙ニすさまじきもの昼ほゆる犬春の行ごろナドアルトハ別ゝ。

すさめぬ

○不受ノ義ゝ。駒モスサメヌハ喰ヒタガラヌナリ。

すきうゝす

○田ガヘスヲスクト云。スクフノ義歟。

すゝやく

○スミヤカヲハタラカシタルゝ。スミヤカレハイソガレノ意。

すゞろ

○何トナシニゝ。スゞロアルキハアナナシニアルクゝ。今ソゾロアルキト云ヘリ。

すゝぐ

○濯ヲヨメリ。アラヒスヽグゝ。

すゞ

○小竹ヲ云。雀ヲスゞメトヨブモ。スゞムレ小竹難ノ義ナリ。

すゝぞ色の

タソガレ時ニフ

クラマ

○黒漆ノ黒キ意ニテ。タ

冠辞考都

ソガレクラマナド云ヒカケタルヽ

すゝの江の（キン）

○似詩ノ岸ト来シト同レ声ユヱ云ヒカケタルヽ

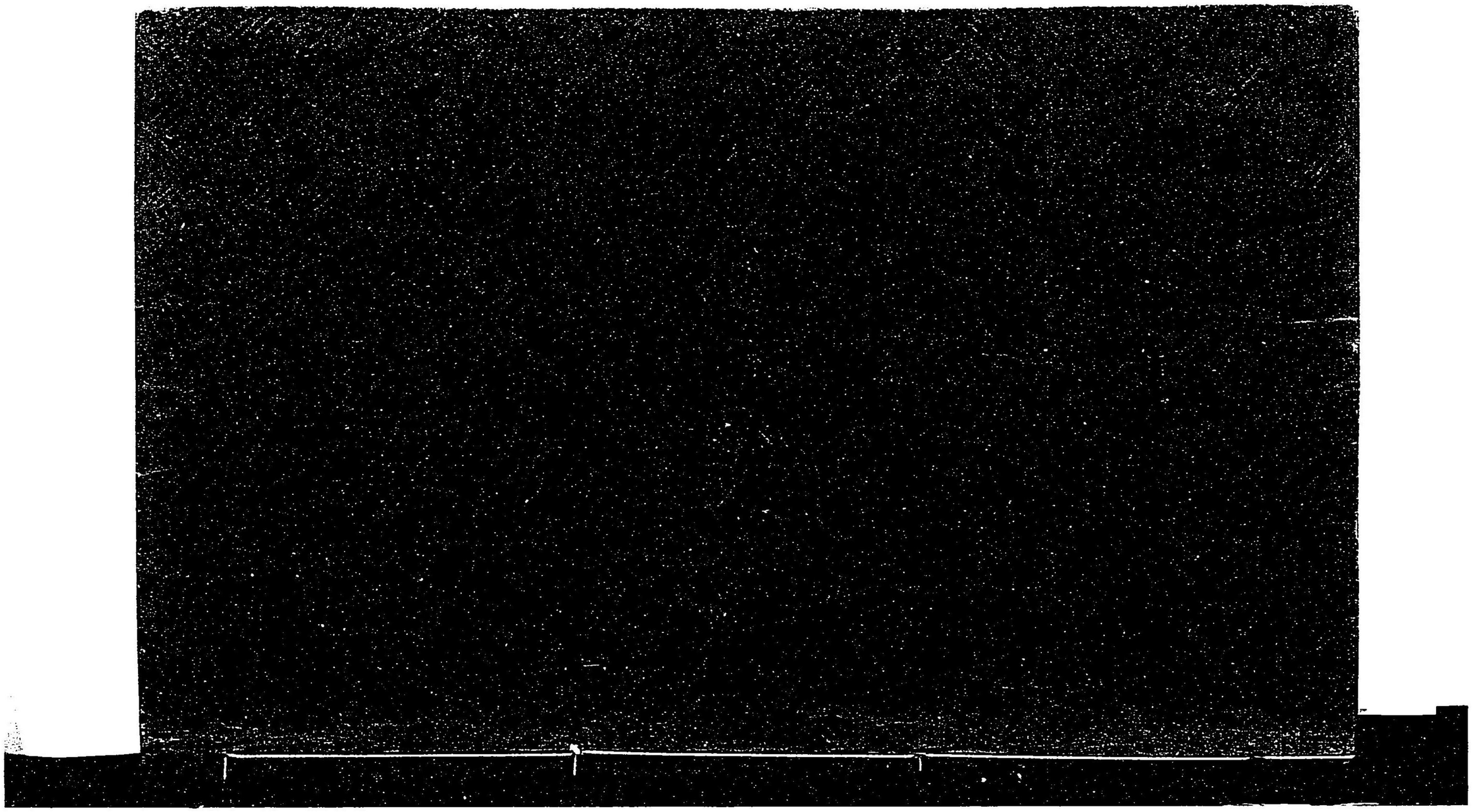
雅言解巻四終

明治十二年四月十日出版
明治三十一年二月十一日再版

定價金壹圓

編纂人　東京府士族　鈴木重嶺　東京市牛込區若宮町廿番地

出版人　厚生堂　相澤富藏　東京市京橋區南傳馬町壹丁目壹番地（電話本局一八三八番）

仝　上田屋　田平義三郎　東京市日本橋區本石町二丁目十六番地

版權所有